

令和 7 年度第 2 回洞爺湖町地球温暖化対策実行計画推進委員会議事録

日時：令和 7 年 1 2 月 2 日（火）13:30～15:00

場所：洞爺湖町役場 3 階 防災研修ホール

出席者：

番号	区分	出欠	団体名	氏名
1	学識経験者		酪農学園大学	吉 田 磨
2	産業団体	欠	とうや湖農業協同組合	佐 藤 憲 一
3	〃		いぶり噴火湾漁業協同組合	福 島 浩 二
4	〃	欠	洞爺湖町商工会	山 戸 準 也
5	〃	欠	一般社団法人洞爺湖温泉観光協会	高 橋 洋 一
6	〃		特定非営利活動法人洞爺まちづくり観光協会	大 石 芳 秀
7	〃	欠	洞爺湖温泉旅館組合	来 栖 正 光
8	教育関係	欠	洞爺湖町校長会	鈴 木 恭 朗
9	金融機関	欠	伊達信用金庫	埴 郁 馬
10	交通関係		道南バス株式会社	寺 本 信 也
11	エネルギー 供給事業者		北海道電力ネットワーク株式会社室蘭支店	中 田 泰 史
12	その他町長 が認める者	欠	洞爺湖町環境審議会	室 田 欣 弘
13	〃		ウイメンズネットワーク洞爺湖	青 木 佐智子
14	〃		洞爺湖町自治会連合会	吉 田 聡
15	〃	欠	洞爺湖町自治会連合会	依 田 信 之
16	〃		洞爺湖町自治会連合会	堀 家 潔
17	行政		洞爺湖町	八反田 稔
18	〃		洞爺湖町	佐 野 大 次
19	一般公募			三 上 みゆき
20	〃			荒 町 美 紀
21	〃			宮 本 好
—	オブザーバー	代理 (オンライン)	環境省北海道地方環境事務所 地域脱炭素創生室長	西 野 雄 一
—	〃		北海道胆振総合振興局 保健環境部くらし・子育て担当部長	讃 岐 雅 嗣

会議次第

1. 開会：仙波事務局長（産業振興課長）

2. 委員長あいさつ：吉田磨委員長

3. 議事事項

（１） 洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の見直しについて

（２） 洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の各施策の優先順位の検討について

令和 7 年度第 2 回洞爺湖町地球温暖化対策実行計画推進委員会議事録

○仙波事務局長

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和 7 年度第 2 回洞爺湖町地球温暖化対策実行計画推進委員会を開催いたします。

本日の推進委員の出席者は 13 名です。室田副委員長、佐藤委員、高橋委員、来栖委員、鈴木委員、塙委員、依田委員から欠席の報告を受けております。

洞爺湖町地球温暖化対策実行計画推進委員会設置要綱第 5 条第 3 項の規定により、本日の出席者は過半数に達しており、会議が成立していることをご報告いたします。

はじめに、吉田委員長よりご挨拶をお願いいたします。

○吉田磨委員長

本日もこの地球温暖化対策実行計画推進委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

先日ブラジル（ベレン）で開催されておりました COP30 が予定を 1 日延長しまして 11 月 22 日に閉幕いたしました。

協定から 10 年を迎えた今回の会議は、「実施の COP」と呼ばれまして、世界がいよいよ行動フェーズに入ったことを示す重要な節目の会議でございました。

機構資金を 2035 年までに現在の 3 倍に増やす方向性、それから森林保全と地域コミュニティ支援の強化、損失と損害基金の指導、国際炭素市場のルールの確定、そして公正な移行メカニズムの導入など、世界的に公平な脱炭素を進める姿勢が示されました。

一方で、化石燃料の段階的廃止、それをフェーズアウトと言うんですけども、そのフェーズアウトのロードマップは合意に至らず、世界の平均気温は既に 1.5 度を超える危機的状況にあることも確認されました。

この現実には、私たち、洞爺湖町にも直接影響してまいります。

豊かな自然と観光資源を守りながら、持続可能な地域作りを進めるため、私達の行動が問われています。

洞爺湖町では、地球温暖化対策と並行して、生物多様性の基本計画の策定も進めようとしております。

昨今、メガソーラーでいろいろと議論されているところではございますが、本来これらは決して相反するものではなく、むしろ共同で取り組むべき重要な課題です。

どちらも未来の世代に残すべき価値であり、地域の自然と暮らしを守るために不可欠な取り組みです。

本日の委員会では、事務事業編の見直しと区域施策編の優先順位を検討いたします。

2030 年度までに一酸化炭素排出量を 2013 年度比で 46%削減するという目標達成に向けまして再生可能エネルギーの導入や省エネの推進、地域資源を生かした取り組みをさらに加速させる必要がございます。

委員の皆様には、専門的な知見と地域の視点から建設的なご意見をいただければ幸いです。

本日の議論が洞爺湖町の脱炭素化、それから生物多様性の保全、そして持続可能な発展に向けた一歩となることを期待しております。

未来の世代に誇れる環境を残すため、力を合わせて進めてまいりましょう。

どうぞ今日もよろしくお願いいたします。

○仙波事務局長

ありがとうございました。

議事に入る前にご報告がございます。

令和 7 年 10 月 1 日付けで役場の人事異動に伴いまして、新たに佐々木課長補佐が 10 月 1 日から産業振興課に配属となりました。

事務局を担当することとなりましたのでご報告いたします。

よろしくお願いいたします。

後、もう一点ですが、これまでの会議でマイクを使用して進行してたところですが、オンラインで参加しておられる環境省の方からマイクを使うと、聞き取りにくいということで本日はマイクを使わないで進行させていただきますが、聞き取りにくいなどありましたら、適宜マイクを使用いたしますので、そのときは申し出ていただくようよろしくお願いいたします。

それではこの後の議事進行につきましては、吉田委員長にお願いいたします。

よろしくお願いいたします。

○吉田委員長

それでは早速議事に入りたいと思います。

次第の 3 議事事項 1、洞爺湖町地球温暖化対策実行計画事務事業編の見直しにつきまして、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局より資料 1 に基づき説明。

議事事項 1、「洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の見直し」について、ご説明いたします。

資料 1 をお手元にご用意願います。

第 1 回開催時に「事務事業編」の見直しについては、原案どおり賛成していただきましたが、一部ご指摘いただいた単位などの表記を訂正いたしました。

6 ページ、7 ページ及び 8 ページです。

「リットル」の表記をアルファベットの筆記体からブロック体の大文字に統一

同じく 6 ページ、7 ページ及び 8 ページです。

「キロワットアワー」の「キロ」の表記を小文字に統一

次に 5 ページから 10 ページです。

「シーオーツー」の「2」の文字を下付きに統一しています。

続きまして、前回、環境省さんからアドバイスをいただきました「再生可能エネルギーの導入」についての文言追加です。

町としても具体的な取り組みとして実行計画の中に明記したほうが良いという考えから、今回文言を追加するものです。

11 ページになります。

「第 3 章具体的な取り組み」「1. 施設設備の改善等」に

・公共施設に再生可能エネルギーの導入を推進する。（または「検討を行う。」）の 1 文を追加するものです。

「導入を推進する」または「導入の検討を行う」のどちらが適切か委員会で決定していただきたいと思います。

最後に、意見等がなく承認された場合は、本日で決定となりますが、意見等があり計画内容にさらに修正が必要な場合は次回の推進委員会で決定することになります。

いずれにいたしましても、見直し案が承認され次第、町ホームページで公表する予定です。説明は以上です。

○吉田委員長

いかがでしょう。特にお尋ねする点はございませんでしょうか？

そうしましたら、標記の修正はそれでよいと思いますが、事務局から説明提案がありました 11 ページ一番上です、公共施設に再生可能エネルギーの「導入を推進する」という記載するか、公共施設に再生可能エネルギーの「導入の検討を行う」どちらが良いかということ

です。

皆さんいかがでしょうか？

「導入を推進する」ということで、いかがでしょう。

そうしましたら、この委員会では、公共施設に再生可能エネルギーの「導入を推進する」ということで進めていただければと思います。

それでは議事事項 1、地球温暖化対策実行計画事業について要点の見直しにつきましては、先ほどの「導入を推進する」ということにして、その他の修正を承認するということにいたします。

次に、議事事項に洞爺湖町地球温暖化対策実行計画区域施策編の各施策の優先順位の検討話で、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局より資料 2 に基づき説明。

議事事項 2、「洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の各施策の優先順位の検討」について、ご説明いたします。

資料 2 をお手元にご用意願います。

令和 6 年度（令和 7 年 3 月）に策定した「区域施策編」では、温室効果ガスの排出削減を推進するための総合的な計画として、再生可能エネルギー導入、省エネルギー促進、公共交通機関の利用促進、緑化推進、廃棄物発生抑制など循環型社会の形成等について定めるものとなっています。

「区域施策編」の「第 6 章 未来の洞爺湖町のために」、「1 洞爺湖町の目標達成に向けた取組・施策」の表 6-1 から 6-4 の基本方針ごとに町民・事業者・町がそれぞれ果たすべき役割が示されておりますが、今回、これらの施策について、短期（2030 年度）、中期（2040 年度）、長期（2050 年度）の 3 つの期間に分けて優先順位の検討を行い、2050 年に向けて取り組みを推進していきたいと考えております。

基本方針ごとの優先順位については、事務局で案を作成していますので、その案を基に優先順位を検討していただきたいと思います

では、事務局案を説明させていただきます。

資料 2（事務局案）に基づき説明。

○吉田委員長

ご説明ありがとうございます。

皆さんから質問、それから確認しておきたいこと、ございませんでしょうか？

○八反田委員

今、優先順位を事務局案として説明いただいたかと思いますが、どういう考え方で1, 2, 3 を分けたのかということを大まかで構わないので説明をお願いします。

○仙波事務局長

この順位付けですが、大まかに説明させていただきますと、我々住んでる洞爺湖町というのは有珠山を抱えており、前回の2000年の噴火からもう既に25年以上が経過しております。

20年から30年で噴火するといわれていますが、既にもう次の噴火に近いといわれているところです。

そういったことを勘案して策定段階から、有珠山が噴火する前までは、ソフト的な対策、省エネですとか、まず身の回りからできることを優先順位の高いものに据えて、噴火後の復興段階でハード的な整備、再エネ導入とかそういったものを進めていきたいと思いますという考えでこのような順位付けをさせていただいたところです。以上です。

○吉田委員長

ありがとうございます。

いかがでしょう。皆様から他にいかがでしょう。

これは具体的に1, 2, 3で、何かお金のかけ方が全然違うということですか。

○仙波事務局長

いや特にそういうことではないですが、最終的な二酸化炭素の排出のどうしても努力では補えない部分を再エネとかそういったもので最終的に減らというような考えというところで、まずは省エネを、町民や事業者の行動変容をまず促しましょうというところで、特にこういう順番だからお金がかからないとか、かかるかというものではございません。

○吉田委員長

重点的に1からいろんな施策を進めていこうっていうことですね。

限りある財源の中で、優先的にそっちにまずは投資しようということですね。

○仙波事務局長

そういうことです。

○吉田委員長

ということは、例えば3とかになると、少し後回しってということですね。

ただそれは決して無視しているわけではないんですけれども優先順位が低いですよっていうことになる。

いやいや例えばここが3になってたけど、せめて2じゃないかとか。

これが1になっていたけど、2でもいいんじゃないかとか、何かその辺、皆さんご意見いかがでしょうか？

聞き逃してるところってございませんか。

いかがでしょう。全体でもいいですし、個別でもいいですけれども、いかがでしょうか。

何か具体的にありましたら。

特に皆さんの近いところに関係することもあるのかなと思うんですが、その辺いかがでしょう。

個別にはなさそうですね。

そうしましたら一番から少し見ていきましょか？

災害に対するレジリエンスと、最近こういうレジリエンスってことをよく使いますけれども、それに対応する能力とか、しなやかさとか幅広い意味で使っています。

個人的には、あまりカタカナ英語好きではないんですが、なかなかレジリエンスに全て表す良い日本語がないんですよ、それで、使ってるのかなと思いますけれども、ここで対応力というふうに訳していただいてますが、一番が2、1、1、3という順番で、説明会・学習会、あと防災減災意識の醸成っていうのが、まずは一番ということで、その次が、再エネや省エネ施設設備等の導入を促進するということで、J-クレジットは最後ですねということですから、2、1、1、3でいかがでしょうか？

J-クレジットは、すぐとはいかないかなと思いますけど。

先ほど課長からも補足がありましたけど、再エネ・省エネ施設設備等の導入促進というのは、どうですかね、なかなか難しいですかね。

これはいつでもいいかなと個人的には思ったんですけどお金もかかりやすいし、大変だと思うんですけれども、情報提供ということですから、もしくは導入支援ですね。

それについては、1でもいいかなと、個人的には思いますけど皆さんいかがでしょう。

○宮本委員

優先順位 1 がついてるものはすでに取り組んで今やってるものっていうイメージがあります。

多分この段階的にもう 1 はクリアしてるのがほとんどじゃないのかなって思うんですね。

だから次に 2 をやっていくのかなっていう。

1 はもう取り組んでる、終わったものとかそういう優先順位というか。

進行形か、終わったものなのかな。

○吉田委員長

確かにそうですね。というと何かゼロのような感じですね

もうやってますよってということで、そうすると、2 段階しかないってことですね。

○宮本委員

2 を 1 にとかいうよりは、もう多分 2 から始まるっていうイメージを持つんですがどうでしょう。

○仙波事務局長

この資料 2 の上の導入の部分で 1 目標 2030 年度まで、2 中期目標 2040 年度まで、3 長期目標で 2050 年度までになってますので、当然、宮本委員おっしゃられるように、特に 2030 年度までの短期的な目標については既に取り組んでないと、逆にまずい目標だと思われますし、2 番の中期目標については決して今やらないっていうわけではなく、あくまでもこの優先順位 2 の目標のゴールが 2040 年という捉え方であって、2 だからもう少し後っていうわけでも決してないんです。

ただ再エネ導入とかそういうことを事業者に求めるとなると、一方で経費的な負担もございますし、例えば導入してすぐに噴火して使い物にならなくなったということになれば、余計に復興の足かせにもなりかねないという部分もありますので、2 か 3 となると、消極的な印象を与えているかもしれないんですが、ただ目標がそれぞれ短期・中期・長期という部分での視点でお考えいただければと考えております。

答えになってたかどうかかわからないですが、我々としてはそういう思いでこういう順位付けをさせていただいたっていうところをご承知おき願いたいと思います。

以上です。

○吉田委員長

ありがとうございます。

噴火を意識した、短期目標 2030 年度とそれ以降ということですね。

なるほどという感じもしましたが、2035 年度の目標というのは、実は国ではありますので、もうすこし刻んでもいいのかなって気もしないでもないですけど 1、2、3 は、もう決定済みでしたか。

○仙波事務局長

決定ではないです。

今この段階で皆さんからご意見いただいて、あくまでも今、我々から提示したのは、事務局案ということで、お示しさせていただいたところです。

それを持って、その優先順位に従って具体的目標・取り組みを、今後決めていくための前段の優先順位というところです。

今、我々事務局から示した案もあくまでもこれは事務局案でございまして、皆さんから、いやこれは少し遅いんじゃないかとか、2040 年までじゃなくて、もっともっと早いな、と。

2030 年度を目標に進めていった方がいいというご意見がありましたら、当然それは優先順位をあげるというか、中期目標から短期目標に変えるとか、そういう対応はしていきたいと思いますのであくまでも今示したのは我々事務局案だということでお考えいただければと思います。

○吉田委員長

順位の数字ではなくて、この 1、2、3 の中身は変えられますか

○仙波事務局長

もちろん変えられます。大丈夫です。

○吉田委員長

なるほど、継続していることをそのまま頑張りましょうっていうのを、いやそれこそ 0 みたくできないかなと思ったんですけれども、継続的取り組みは 1 番で、2 番が短期目標、3 番が中期目標、4 番が長期目標でもいいのかなと思います。

となると何か今やってることを続けてやるよねっていうイメージと、30 年度まで、何か 35 年を入れてもいい気もするんですけど、40 年ってかなり先な気がするので、15 年後って、僕は多分定年退職してる見通しで、そのぐらい先で、新幹線が来るかどうかというのですよね。

だからそこまでだと、なんかまだいいかいうような印象が出てしまうのかなという。

今、宮本さんおっしゃっていただいたように、今もう既に頑張ってますよっていうことをしっかり明記するっていうことと、例えば 30 年は噴火にそれほど影響ないものをまず進めましょうとか。

きっと噴火来てるよねっていう後の 35 年辺りを想定して、その噴火終わった後に、もう素早く取り組みましょう、40 年まで待つんじゃないくて、35 年の 60%ですか、削減に向けた取り組みとして入れてもいいかなと思うんですけどでも、それをやると後ろは、どうしようっていうのがありますよね。

何か皆さん、ナイスなアイディアないですかね。

いかがでしょう。30 と 40 が開いているかなっていうのと、今やっているっていうことの二つの要素があるので、この 1 と 2 あたりを少し修正したいなと思いますけど、皆さんいかがでしょうか？

もう既に洞爺湖町としては頑張ってますよっていうのを町内外にアピールするっていう効果もあるのかなと思ってなんか、いわゆる 0 に相当するのを 1 にしてもいい。

なんかどうなんですかね。

優先順位とか。

1 から始まるんじゃないですかね。

もうやってますっていうのは何か継続とかっていう扱いにしてもいいのかなと思うけどその辺いかがです。

なんか 1、2、3 とかでいいですか

○仙波事務局長

難しい部分あるんですが大前提として、この計画を作ったときに、2030 年の 46%と、2050 年度はゼロというところで、その中間にあたる 40 年を中期目標という考えて作って、先生から今、国の方では 35 年云々という話もあるんですが、当初この計画を作ったときにそういう三つのフェーズに、フェーズという表現があっているかわかりませんが、三つの期間に分けて、元となるこの区域施策編を作ったっていうところで我々もそれに従ってこういうような形で短期、中期、長期という分け方をさせていただいたところです。

ただ一方で 2040 年まであと 15 年ぐらいあるじゃないかとなると、なかなか先も見通せないっていう部分も確かにあるので、例えば 1、1.5、2、2.5、3 っていうような感じで、3 段階から 5 段階ぐらいっていうのであれば、いいのかなと思います。

例えば、皆さんの意見をお伺いしなければいけないんですが、例えば①の 1 の一番最初の上ですね。

再エネや省エネ施設の設備等の導入促進ですが、優先順位という表現も適切ではないかもしれませんが、2 になっているのは、例えば 1.5 にするとかそういった形ではいかがでしょうか？

○吉田委員長

いいですね。1、2、3、4、5 でもいい気もするんですよ。

表記のときに、刻んだ方がいい、3 段階っていう意味では見えやすい。

国にも関わってくるので環境省に聞いてみましょう。

環境省さん聞こえますか、今の議論を聞こえてましたでしょうか？

○環境省（オブザーバー）

優先順位をもう少し刻むべきかというお話が目標年度の部分のお話をされていたのかなと思いますが。

○吉田委員長

その辺どうですかね、2040 年だと、国の 35 年目標もございますし全世界的な目標ということでもあるんですが、噴火の前後っていうことも少し意識しつつ、35 年を入れてもいいかなっていうことで、今このフロアでは考えてるんですけども、国としてはいかがなものでしょうか？

○環境省（オブザーバー）

そうですね、本計画をより実効的なものとして実行していただくためには、なるべく目標というか、チェックポイントというか、刻んでいただいた方がいいのかなと思っておりまして、そちらの会場で、2035 年っていうところを一つポイントとして作るということには、弊所としても同意でございます。

○吉田委員長

ありがとうございます、国のバックアップをいただいたということで、そうしましたら、刻む順番はどうですかね、役場としては「1、2、3」「1、1.5、2、2.5、3」の他には「1、2、3、4、5」どっちがいいんですね

○仙波事務局長

それは基本、構わないです。

わかりやすい方が、いいと思われまので、5段階1、2、3、4、5という考えでもいいのかなと思います。

○吉田委員長

5年刻みに行きましょうか、1、2、3、4、5にして、1というのは比較的継続的な取り組みということで、2が短期目標ですかね、3が中期ですよ、4どうしますか、中長期ですかね、5が長期ことですよ。

継続、短期、中期、中長期、長期ということで5段階に分けて、刻んでいきたいなと思います。

改めまして、数字が変わりそうですけれども、皆さんにその1番からです。

5段階になったときには、何番がよろしいか？というのを皆さんにお伺いしていきたいと思えますけれども、単純に置き換えると2が3みたいな感じですね。

でもそこを2に繰り上げるか、ということだと思えます。その辺繰り上げた方がいい部分、それから中期目標でいいんじゃないか、というところを、最初のページでは、ご希望いただきたいなと思います。

それから下の方はですね3番を、黙ってると5なんですけれども4にするとか、2045年にするか、2050年の最終的なゼロに向かうところまで頑張ろう、とするかですね、その辺をご議論いただきたいと思えます。

まず初めに、再エネや省エネ施設設備等の導入促進ということで、これは噴火を意識してということでしたが、あと10年噴火しないことは多分ないかな、とは思えますけれども、そうすると新しい2番もいいのかなと思えますけれども、皆さんいかがでしょうか？

そうしましたらこれは2035年ということで2番ということでお願いします。

1と付いてるところは1のままでよろしいですかね。継続ということで。

二つ目、定期的な学習会説明会、それから防災減災意識の醸成は1のままいうことで。

Jクレジットの活用促進ということで、古い番号が3番なので、5番ですけど、これはいかがでしょう、5にするか4にするぐらいかなと思いますけど、Jクレジットの具体的な何か、方向性とかってというのは洞爺湖町としてはいかがですかね。

どなたかご存知の方いらっしゃいますか、いろんなところでJクレジットが出てきてます。僕も研究の中で、牛の「げっぷ」で出てくるメタンですね、その削減を今やっています、結構うまくいきまして、予備実験の98%削減できたんです。

もうそれをJクレジットに繋げていこうということも、今計画しているところではございますが、いかがでしょう。

農業関係の取り組みでも、Jクレジットもありますし、それから森林の取り組みもJクレジットありますけれども、その辺り、ご自身の活躍のところと関わっている方もいらっしゃいますか。

○仙波事務局長

うちの町でのJクレジットの可能性といたしましては、森林等この後も出てくる藻場ですね。

それともう一つが個人宅で、仮に今後、太陽光パネルを設置した場合にそこで減った分を、Jクレジットとして例えば町がまとめてやることも確かできると何かで読んだことがあるんですが、そのくらいかなとは思います。

なので、例えば森林とすると、うちの町は、その森林の面積がかなり少ないっていうところもあるので、なかなか森林からJクレジット創出するのも難しいのかなとも思う。

個人宅ですとか事業者での再エネ導入が今後進んでいって、使う量を上回る発電量が仮にあるとすれば、その辺でのJクレジットの可能性はあるのかなと考えますと、どうしてもある程度の再エネ導入・再エネ設備が導入された後のお話になってくるので、Jクレジットの取り組みとしては、後年度になっていくのかなと我々考えております。

○吉田委員長

わかりました、ありがとうございます。

そうですね森林資源でのJクレジットがなかなか難しい、藻場とか、もうすぐについていかわけにいけないですよ、福島さん何かありますか。

○福島委員

目標設定を謳ってるんですけども、対策3の平時の再エネ利用の次世代のEVっていうの

はもう既にやってるんだよね。

この辺はどうなのか、わざわざ分けてやる方がいいんですか、そういったもの、既にこれ総がかりしてった方が、いいような気がするんだけど、そういうことではないですか。

これ 2050 年からやるだとかそう言ってなくても既にもうやってることを謳って、取り掛かるのがこの 2050 年から取り掛かるっていう意味なんですか？

○吉田委員長

それまでには、っていうことなんですよ。

全ての取り組みが、少なくとも 2050 年なんですけど、もっと早く、もっと早くっていう、まずは、どこから行いましょうっていうことだと思うんですけど。

また、先ほどの議論の中で、1 番はもうほぼ継続してるんじゃないか、っていう議論になっ
ていますので、またそこも後で少し見直してみますね。

○福島委員

もう既にやってることも後ろにいてもうまくないから、ただこの文言が結局町民に対しての文言なのか、これはもう、勉強不足なんで、町でやることなのか、消費者の町民に謳
っていく問題なのか理解に苦しむんですよ。

いろんな説明会であれば定期的な学習会だとかって言うんだけど…、だから一般町民に
いろんな防災の説明会して、あとはみんな防災のいろんなもの、私物的に冬だったら防災い
ろんな防寒着とか持ち出せよって説明するのか、町としてはそういう冬出すとかっていう
のも、みんな用意するのか、その辺はどうなるんだろうね、そこら辺は、ずっと考えてわか
らなくて

○吉田委員長

区域施策編なので、誰から誰というわけではなくてですね、この委員会で、みんなで、こ
う決めた目標ということと、それから実行計画っていうことなので具体的な施策とか、実施
計画はそれぞれのいろんなところでやっていくんですね。

それはもちろん役場もそうですけれども事業者もそうですし、町民もそうですし、その元
になる実行するための計画っていうのはこれなので、みんなでどうしましょうっていうこ
と。

ゼロカーボンシティ宣言をしているので、それに向かって役場・行政ももちろんそうす
けど、町民 1 人 1 人もそうですし、町の中にある事業者として、みんなでそのゼロカーボン

に向かうには何をしたらいいだろうかっていう、そのもとになる実行計画です。

そうしましたら J-クレジットどうしましょう。

3 番、今のまま 5 番にすると、もうはるか先ですけども、やっぱりもう少し前にそういう 4 とかでもいいのかなと思うんですよね。

2045 年ぐらいまでには、もう少しこの中期よりも、新しい 3 は厳しいかもしれないですけど、2045 年ぐらいで、そういう道筋が作れないかなと思いますので 4 とかでよろしいですか。

○宮本委員

事業者だけがマルになってるんですけど、さっきの説明だと町民もマルになるのかな。

○吉田委員長

そうですね、これマル増やしてもいいですか。

○仙波事務局長

個人としては、太陽光を導入していただくというのがありますが、私もうこの立場でいながら不勉強で申し訳ないんですが、町民個人での J-クレジットとの申請っていうのは考えてはなくて、我々行政と事業者の方でっていうところで考えてました。

○吉田委員長

そうしましたら、このままの形で、4 番でよろしいですか。

○仙波事務局長

今回、決めたら 2050 年度までの計画でいくものでは決してなく、途中途中で適宜計画の見直しもありますので、例えば、今の現状では、民間が主体となって J-クレジットの創出っていうのは難しいですけど、今後、制度ですとか、新たな技術革新等々で、この辺も随時見直していけるのかなとは考えています。

○吉田委員長

そうですね、それでは、町民は今のところは除き事業者行政主体となって、優先順位 4 で進めていきたいと思いますがよろしいですか？

ありがとうございます、そうしましたら 2 番ですね避難施設のエネルギー需給ということでこれは 2050 年の長期目標ということでエネルギー貯蔵利活用システム、それから地域エネルギー会社の創設ということですが、これはなかなか今具体的な施策としては見えていないということでしょうかね

将来的にはこういったものを最終的なゼロに持ってくるための最後の施策としてやりたいということだと思うんですけども、これはどうですかね。

5 番でよろしいですか、一番最後に頑張るところだということ。
そうしましたらこの二つは 5 番、新しい 5 番としたと思います。

最後ですね、平時の再エネ利用ということで、先ほど福島さんからもありましたけれども、次世代自動車と V2H の導入推進ということですが、町民その 1 人 1 人もそうですし事業者や行政もそうだということで、従来の 2 番で、そのままだと 3 番なんですけれども、いかがでしょう。

3 がいいか一つ繰り上げて新しい 2 で行くか。

これ公用車とかも、どんどん EV とか H V とかに置き換わっていくってことですよね。

○仙波事務局長

そうですね、公用車もいろんな様々な用途のものがあって中には、EV、ハイブリッドに置き換わることのできない車両も中にはあります、重機ですとか除雪とかそういったものはなかなか難しいんですが、近距離移動しかしない公用車については EV で対応できるのかなと思っています

それ以外は、長距離をどうしても走らなければならないようなものもございますので、そういうものについては、ハイブリッドですとか、そういったもので対応していかなければいけないのかなとは思っております。

○吉田委員長

そうですね、これは国としても、今まで従来の自動車をどんどんなくしていこうということで次世代自動車に変えていこうというのが、そうですね 2040 だと少し遅い気もします。

いかがでしょう、15 年後までということでこれ 10 年後ぐらいでもいいのかなと思うんですけども新しい 2 番でよろしいですかね。

そうしましたら確認ですけれどもこの括弧 1 については、上から 2 番、1 番、1 番、4 番、5 番、5 番、2 番ということで決めたいと思います。

いかがでしょうか？よろしいですか。ありがとうございます。

次です、二つ目、革新と歴史風土の融合による産業の発展ということで、これはかなり 1 がついてます。

いわゆる今までもやってるよということで、この 1 の四つについては、そのまま 1 番でいいかなと思います。

いかがですか、よろしいですか。

そうしましたら、漫画アニメフェスタが 2 番、それからですね、まずそこを議論しましょうか？洞爺湖漫画アニメフェスタ等でのキャンペーン等の実施、次世代を担う若者への理解の醸成をこのイベントでやっていきましょうということだと思うんですが、それが従来は 2040 年です。いかがでしょう。

○宮本委員

アニフェスとかでイベント出展して、啓蒙活動するみたいな

○仙波事務局長

まずは、そういったところなので、今見ると 2 じゃないような気がしますね、1 でよいかなという気がしています。

○吉田委員長

それでは、新しい 1 番にしたいと思います。

次です、バイオマス資源の有効活用ということで、地域資源を活用した再エネの導入の促進、これが今のところ 2050 年までになってますが、これ具体的に地域資源っていうのは何を想定されてますでしょうか？

○仙波事務局長

そうですね、この後も出てくるんですけど、未利用の資源というところで、粃殻っていうのが当初計画を作ってる段階ではあったので、いわゆる洞爺湖町地域で独自性のある、再エネ導入というふうに考えていて、今後の技術革新に期待する意味もこめて目標としては年度というか一番遅い 2050 年という目標年度に据えていました。

○吉田委員長

小水力とか、ご提案もありましたけども、あれはどうなんですかね、なかなか難しい？

○仙波事務局長

多額の整備費がかかってしまうものですから、例えば配水池、水を各家庭に配る高いところに配水池ってあるんですけど、そういったものの更新に合わせて小水力の設備は導入できるのかなと、あとは金目問題も当然発生するんですが、そういった施設の更新時に合わせて、新たな再エネ導入というのは当然考えていかなきゃいけないですし、担当課もそういった視点で、今もいろいろ考えていただいているような状況です。

○吉田委員長

その辺はですね副長得意ですかね。施設更新っていうのは大体どのぐらいなんですかね。

○八反田委員

施設ですね。色々なものがあるのでなんとも言えないですが、当然 4、50 年基準だと思うんです。

○吉田委員長

今あるものは、結構最近何か、それとももう既に例えば 30 年 40 年経ってるとか。

○八反田委員

どちらかというと経ってるものが大部分です。

幸か不幸か災害・噴火災害等々あったので、それで更新している施設や、そういう設備もあるものですから、更新時期に来てるような現状なんですよ。

なので、変な言い方ですけど、もし噴火災害が残念ながら起きたとしても、それを機にまた更新できるかなみたいな、違う考え方を持っはいるんですけど

○吉田委員長

そうすると、何か 2040 年ぐらいには更新できるかなっていう、気がしないではないですではないですけども、どうですかね新しい 3 番でもいいのかなと。

2050 年まで待たなくても、もしかすると更新の時期に合わせて、何かできるところから行けないかなという気もしますが、いかがでしょう皆さん。

新しい 3 でよろしいですか。

地域資源循環の促進ということで、これも有機廃棄物の利用ということですね。
従来の 2 番 2040 年ということですが、いかがでしょうか？
有機廃棄物、既にこれやっていますか

○仙波事務局長

使っているんですけど、ただ生産量に対して町内で消費される量っていうのは、まだまだ少ないっていうところで、それを地産地消ではないんですけど、そこをもう少し進めたいっていう意味も含めての、現時点ではまだゴールには達していないっていう判断です。

○宮本委員

これは花美館ですか。

○仙波事務局長

海の華です。

○吉田委員長

有機廃棄物を減らすといわゆる廃棄物として焼却して最終処分場に行くのを少し減らすっていう効果もありますので、もう少し頑張れるかなと思う。

いかがですかね、今のままだと 3 年なんですけれども、2040 年か、もう少し頑張って 10 年後までに何とかしようとするのか。

皆さんいかがですか、これは多分僕よりも町に住んでいる皆さんのほうが身近なものかなと思うんですけどあと 10 年か後 15 年間どこかなと思って…

○仙波事務局長

これについては地域資源の循環ということで、海で上がったものを山で使うイメージをしてまして、肥料が高騰もしているということで、地元で採れたもので、肥料の代替になるものであれば、それを地域で使って、お互いに、一方ではゴミだけ一方では大事な資源だよっていうところの考えで、ここの項目を作った。

○吉田委員長

なるほど、そうすると、今日冒頭でお話させていただいた、その生物多様性保全にも繋がっているということで、科学的な肥料とかを抑えられるっていうメリットもありますし、環境負

荷を低減できるっていうこともあるので、そうしたら、少し背伸びして、新しい2番 大き
いかなと思うんですけどよろしいですか。

これは新しい2番ということでお願いいたします。

もう一つですね、町内バイオマスは高効率な革新的技術の導入促進ということで、これは
先が見通せないっていうこともあるので、元々3番なのかなと思いますが皆さんいかがでし
ょうか？

これはまだわからないんですかね、革新的技術の導入それが、いつできるのかなってのわ
からないうちは、これ5番でよろしいですか。

最後ですね、革新的技術への積極的な挑戦ということで、積極的挑戦は、してもいいかな
と思うんですが、それがどういうメニューが手に入るかなっていうのにもよると思うんで
すけれども、これはどうなんですかね他の自治体とか、脱炭素の取り組み成果を町内会各産
業へと波及するとか、どうですかね。

積極的な挑戦が波及なんですね。どんどん広げていくってことですね。

それでも頑張ってもいいのかなっていう、それできるかどうかわからないですけど。

その取り組み追加を発信するっていうことで、周りに技術的なアプローチができるかも
しれないってことですか。

いかがでしょう、これが4とかでもいいかなと思うんですけどね。

そしたら、新しい4ということで、ありがとうございます。

二番目は、もう一度番号言っていきますと、上から1番、1番、1番、1番、3番、2番、
1番、5番、4番いう形になるかと思います。

よろしいでしょうか？ありがとうございます。

そしたら3番ですね、自然環境の維持と脱炭素ということで、これも一番はそのまま1で
よろしいですね。

それは森林の整備が3ということで先ほど課長からもありましたように、なかなか森林
資源が乏しい状況かなっていうお話もありましたが、一方で今ある資源、森林資源を更新し
ないといけないっていうのもありますよね。

森林を守るという意味ももちろんですし、二酸化炭素の吸収能力がどんどん無くなって

くるので、それを置き換えて、例えば木質バイオマスにするとかですね、そういった取り組みができるのかなと思いますが、皆さんどうでしょう。

民有林の整備促進と関わってきますとか、これ 2 行目の森林と 3 行目の民有林っていうのを分けてるのも何か少し…

○仙波事務局長

民有林は文字通りに民有林に限定したもので、森林というのは町内全体の森林っていうところで、マクロとミクロの違いで

○吉田委員長

優先順位が違うんですね。

○仙波事務局長

そうですね、ミクロ的なところから小さいところから片付けて全体に繋げるっていうイメージだったと記憶してます。

○吉田委員長

あと、どうなんですかね、面積比というのは、民有林とそれ以外では。

○仙波事務局長

結局ですね、カウントできる森林っていうのが民有林なんですね。

確か目標作った時には、確かそういうふうにしたので、民有林から手を付けいかないと、カウントできないかなと思います。

○吉田委員長

国有林、道有林はあんまり

○仙波事務局長

そんな意味はなくはないんですけど。

○吉田委員長

困ったときには環境省に聞きましょう。

すいません環境省さん聞こえますか。

○環境省（オブザーバー）

聞こえております。

○吉田委員長

民有林とそうではない都道府県林、それから国とかっていう分け方、市もあるんでしょう、町もあるんでしょうけれどもその辺いかがですかね。

○環境省（オブザーバー）

すいません後半の方が聞き取れなくて、民有林と普通の森林で、今、施策がわかれているってところが、議論になってきたのはわかるんですけど。

○吉田委員長

要は、民有林だけを分けて、まずそこを進めましょうということで、それ以外というと、公的な森林ということになると思うんですけども、こういう区域施策編の中での位置づけなんですけど、何か国が持っている森林とか、道が持ってる森林とか、町が持ってる森林というのは、分けた方がいいんですかね。

○環境省（オブザーバー）

そうですね確かに整備の進め方っていうところが、公共の森林と民有林の異なるのかなと思うので、分けるのはあり得るのかなとは思っていて、まず取り組むのであれば、それはこの協議会として働き掛け、まず働き掛けやすいところに優先順位を高く置いて、例えば、民有林の所有者さんに働きかける伝手とかがよくあるのであれば、こちらを先にやるっていうのもいいと思いますし、逆にその公共が持ってる森林の方が町有林とか、道有林とかの方がアクセスしやすいっていうのであればこちらの優先順位を高くしていただくっていうことがあり得るのかなとは思っていて、分けることについてはいいのかなと思っております。

○吉田委員長

ありがとうございます、皆さんいかがでしょう。

まずは、どうやって町としては民有林の方がアクセスしやすいという、考え方ということ

ですね。

○仙波事務局長

森林譲与税とかその辺の絡みで、事務局でありながら申し訳ないんですけど、確かその関係だったような、部長、何かわかりますか。

○佐野委員

森林の整備なので、その整備にゴールを目指すっていう視点もあるのかなと思うんですけど、民有林については民有林としての整備を促進する。

先ほどの民有林に対してこういうしっかり整理をしてくださいという働きかけも含めての、意味合いがあるのかなと感じています。

そういった事情は、先ほどの緑の整備促進というところは、どんどん早くできる場所なので、多少この整備と整備促進、民有林の整備促進というのは、時期がずれてもいいのかなと感じています。

○吉田委員長

なるほど、確かにそうですね整備ではなくて整備促進ですからね。

わかりました、そうしましたら、2番だと2040年、3番の2050年ですが、いかがでしょう。

今後は、民有林をそのままスライドさせて、例えば3番新しい3番で森林の整備は、もう少し格上げして4番とかでもいいのかなと思うんですが、いかがでしょうか？

そうしましたら森林の整備が4番で、民有林の整備促進の3番いうことにしたいと思います。

次、林業の担い手確保ということで、これも、今の議論と関わってくるかなと思うんですけども、今すぐにというのなかなか厳しいかなと思いますし、森林資源のポテンシャルが少し低いということもあるので、これはどうですかね。

中期の3番とかですね、これは3番ということでしたと思います。

3の5番、藻場の再生・造成ということですけども、これは、従来は2050年ですが、もう少しできたりするんですかね、この辺どうです福島さん。

○福島委員

これはもう緊急な課題なんですよ。

もう今の高水温・高気温のこの影響というのは、もろに海に入って、だから平均気温が2度ぐらい上がっている影響で海藻類がもう知っての通り、海焼けでみんな海藻が全くないんですよ。

それであらゆるものがバランスを失っていて、ウニだとかアワビが食べる餌がない。

多少のコンブだとかワカメの種苗が成長しても、種苗のうちに食べられちゃう。

こういう小さいうちから皆無になっちゃうんですよ。

これ先ほどの(2)の一番最後に、事業の革新的な技術、積極的な挑戦ってこれこら辺で絡みながらこれ早くやっていかないと、浜が駄目になるのと、冒頭に話したようにブルーカーボン、海にやっぱり藻を増やすってことは、山に木植えることと一緒にですからね。

こころ辺両方を兼務してやるんだったら、それでね、対象な事業では駄目だと思うんですよ。

海中で一緒に種苗を蒔いたとしても、みんな小指の爪ぐらいのときでも食べられちゃうんですよ。

フィルムも膨大に大きくして海藻を海に与えてないと、昔は俺もウニ取りやったことあってウニ探すのに大変だったんで藻が多くて多くて、だからその逆だったんですよ、今はもう、藻が全くなってウニだとかアワビが丸裸になっててる状態、ウニの身も入ってませんし、アワビも身入り悪いんです、エサ食べてないから。

そういう悪影響になってるもんですから、ここはもう喫緊の課題で、これ本当に今、浅海部会でも若干やってますけども、大々的にやっていかないと、これを1回逆転していかないとエサのほうが多くなるようなバランスでやってかないと、一緒にやっていきましょうなんてそんな甘い問題ないですよ、膨大なやっぱりそういう藻を作って、藻ってイコール昆布わかめですね。その辺の再生早くやっていかないと、海のバランスも崩れ、崩れてるっていうか、もう、再生不可能になってきてるんですよ。

これはもう日本の全ての浜がそうなんですよ。

今、僕らも食べてるあの昆布ってやつは世界に19種類ぐらいの種類しかないんですよ。その中で11種類が日本にあると、それもこんな日本ぐらい味の出る昆布は世界にないらしいんですよ。

それが今、日高昆布あたりが去年あたりは皆無だったですからね。

そういうことで、ものすごい今、コンブ専業漁業者も危機感を感じてまして今そこら辺も、次の若い世代に早く再生していかないとうまくないんで脱炭素に絡めてやっぱ早く大至急、

陸上かどっかで浮かしてコンブを育成して、大きくなってから沈めるとか、何かしていかないと難しい、これはもう最低の課題なんですよ。

○吉田委員長

わかりましたとなると、これ全然5番だと間に合わなくてですね、もう何なら新しい3番でもいいかなと思うんですけど

○仙波事務局長

口挟んで大変申し訳ございません。

前のカテゴリーで3ってなってるんですけど、決してこれ50年度にやるとかそういう問題じゃなくてですね、既に今、漁協で取り組んでるのも私も承知しておりますし、そのゴールが2050年っていう話で、2050年まで手をつけないじゃなくて、今から手つけていってもこれ2030年とか35年に完成する問題ではないので、我々としては2050年までかかるっていう見通しっていうか、今から積極的にやっても2050年まではかかるでしょっていうところの3番だということをご理解いただきたいです。

これは決して、藻場の再生が後回しだって考えての旧カテゴリーの3ではないっていうことはご理解いただきたいと思います。

あくまでも完成といいますか、ゴールが2050年というふうに考えているというところですいません。

○吉田委員長

そうは言っても、お金の付き方とかも変わってくるでしょうから、どうですかね、まずは中期目標に格上げして、あとは状況を見ながらまた5年後10年後にはもちろん見直しができますので、今現在としては、近々の課題ことで、それを内外に示すっていう意味でも新しい3番にしてですね、2040年までには一つのゴールを目指したいよねっていう意思表示をしてもいいかなと思うんですけど、皆さんいかがでしょうか？
そうしましたら、これ新しい3番いうことにしたいと思います。

先ほども少し出てきた有機廃棄物とも関わると思うんですけども4番ですね。

もみ殻燃料棒の利用促進ということでこれは、ここならではの利活用ということで出てきていたがなかなかこれ、現実問題難しいってことですかね。

○仙波事務局長

もみ殻の行き先がもう結構決まってるっていうのがあって、当初は我々も、未利用資源としてはすごく活用が期待されていると考えて。

目標というか、取り組みの一つに据えた部分もあるんですが、よくよくいろいろ調べていくと、結構行き先が決まってる部分もあって、新たに活用となると、まだまだ解決しなきゃいけない問題があるっていうところで、目標年度最終の 2050 年というふうにさせてもらいました。

○吉田委員長

そういった事情もあるようですけれども、皆さんいかがでしょうか？そうしましたらゼロカーボンまでに整えるということで、5 番でよろしいですか。

プラスチック製容器の分別、リサイクルという話ですけど、これが 2040 年という。なってますが、これはいかがでしょう。

洞爺湖町だとプラスチックどうしていますか？

○仙波事務局長

燃やしています。

○吉田委員長

そうですね、いわゆるリサイクルセンターというか、焼却施設の問題とか、いろいろありますよね、その辺はどうですかね。

佐野さんですかね。

○佐野委員

受け入れっていうところが、一番の考え方なってるかと思うんですけど、その当時、この目標設定した際に、どこの受け入れ設定をされてるかっていうところを把握してなかったんですけども、現在、燃やしていて、あとは不燃に関しては堆積してるというイメージをこのカテゴリーの中で、リサイクルを受け入れるっていう、当時、業者の議論まであったかどうかっていうのをまず確認しておきましょう。

○仙波事務局長

要は循環型社会の形成っていう部分で、文言が計画に盛り込まれたんですが、現状としては今燃えるゴミとして3市3町でやってますんで、うちだけがこれに取り組むとなると、今度、これらのゴミの行き先ですとか、どういうふうにリサイクルしていくのかっていう部分で、要は、最終的には処理場の何て言うんですかね、出る二酸化炭素を減らすっていうのがここの目標になるので、分別するのはいいんだけどその行き先を考えたりしなければいけないので、短期目標ではなく、中長期的な位置づけのカテゴリーに、これは入れさせていただいたっていうところ。

まずは分別するのはいいけど、その出口の部分での検討が必要でしょっていうところですよ。

中間処理場としては広域でやっていて、むしろプラスチック類は燃料利用としているとか、カロリーになるので逆に処理場の燃費が良くなるという、一方でそういう部分もあります。

ただ、いずれにしても全体量を減らさない限りは二酸化炭素の歯止めっていうところを考えると、こういったものもきちんと分別してリサイクルしていかなくちゃいけないよねっていうところの未利用資源の利活用っていう目標・取り組みです。

○吉田委員長

僕、江別市廃棄物減量等推進審議会の委員も務めているんですけども、そこだと江別市今中間処理場の延命措置を、あと15年ぐらい燃やし続けるということ決定してまして、なかなか江別の規模だと難しくてですね10数万人の規模なので、ほかにも今、当別町とかを受け入れてるんですけども、どこかお願いするには大きすぎるし、でも自分だけでやるには少し小さいっていうことでなかなか悩ましくてですね。

僕が入る前の委員会ではその延命ということで決めまして、リサイクル法と当時の法律が変わってるんですけども今、課長おっしゃってたように、プラスチックもいわゆる燃料の代わりとして使って燃やすということをしています。

逆にそのプラスチックを燃やしないと、別にその化石燃料足さなくちゃいけないっていうことがあるので、そういった意味では、必ずしもその環境に悪いことではないんですけども、ただ時代の流れとして、その全部燃やしてしまうっていうことだと分別も進まないとか。

リサイクルにもならないということで民間業者の循環コンビニとかいろいろあるんですけども、そういうところをうまく利用して、一部はリサイクルに回して、一部はやっぱり燃料として使う、何かそういったことも取り組んでいます。

ただ、もう一番大事なゴミをなくすっていう、減らしていくっていうことなのでそういっ

たこととあわせて、ここでは広域で考えていけないといけないということもございまして、すぐにどうのこうのって難しいかなと思うんですけども、その広域の議論もまた一方でやっていくということで、当初の 2040 年というのはこれでよろしいですかね。

そうしましたら 3 番、木質バイオマスの利用も 2040 年までということですけども、これは先ほどの森林とも関わってきますよね。

ペレットとかを使いましょう、とかってということもそうかもしれませんし、どうなんですかね、行政の施設とかでは、何かそういうストーブを積極的に導入するとか何かそういう計画とかってあるんでしょうか？

○仙波事務局長

先ほども申し上げたんですが森林面積が非常にうちの町が少なくて、うちの少ない中で間伐とかやってそこから得られる量の木質バイオマスといいますか、ペレットなり薪なりっていう、その資源量が圧倒的に少ないって問題もあってですね、ただやはり森林整備っていうのを進めていく中では、そういった間伐、切った木の利用っていう部分も当然考えなきゃいけないので、それとセットで切った木の出先としての出口の木質バイオマスの利用ってところで、何かそういった兼ね合いから 2 番に据えたってところで、新しい 5 段階で分けると 4 ないしは 3、ないし 5 になるのか 4 になるのかな。

○吉田委員長

そうですね、先ほどの民有林の整備促進の 3 で森林の整備業務が 4 ということでですけども、その辺と関連させると 3 番か 4 番かなって、今、課長おっしゃるようなことだと思いますので、皆さんどちらがよろしいでしょうか？

そういうこと出口を先に作ってくるってことなんですよ、一方で大丈夫かなと思いますので、3 番はいかがでしょうね。そうしましたら 3 番ということで。

最後ですね廃棄物焼却量を減らしましょうということで二酸化炭素を出してしまうのでこれを減らす方がいいよねってことですけど、これはもう積極性がないとですけど、もちろん今からずっとやるってことはもちろん変わらないんです。

けれども、これいかがでしょう。

例えば、中長期の 4 番とか、この中間処理施設とか最終処分場の問題も出てきますし広域の議論になるのでなかなか洞爺湖町だけでは難しいと思います。

もう4ぐらいにして、あと20年でいろんなところで議論していきましょってというのがいいかなと思います。4番いかがでしょう。よろしいですか。

ありがとうございますそうしましたら上から1番、4番、3番、1番、3番、3番、5番、3番、3番、4番ということになります。ありがとうございます。

最後四つ目ですね。

自然に立脚した観光業の持続可能性向上ということで、これも一番はそのまま一番とさせていただこうかなと思います。

上から見ていきましょう、再エネ省エネで事業コストを低減しましょうという。

そうですね、これ事業者に向けてということですけども導入をする省エネ設備導入促進、それから再エネ設備導入・促進ということですが、これはもう少し早くてもいいかなと思うんですけどどうですかね。

事業者のいろいろなご都合もあろうかとは思いますが、25年後でどうにかしましょうというよりはもう少し早くにどうにかしたいねっていうふうに促進ですかね。

それこそ、導入じゃなくて導入促進なので、もう少し積極性があってもいいかなとは思いますが、例えば2段階ぐらいで新しい3番とかでもいいのかなと思うんですね、あくまで促進ということで、いかがでしょうか、お金の補助とかそういうことにも関わってくるかもしれないがひとまず15年ぐらいでそういうことを考えていきませんかっていうことで進めてはどうかと思います。よろしいですか。

新しい3番ということで

観光にエコ付加価値ということですねエコカップ持参で特典が受けられる、これはとうやコインですか、どうなんでしょう。

また別な何かを使うんですね、多分観光だから、とうやコイン使えないですかね。町外の方は、エコカップ持参で特典が受けられるエコな観光の促進、エコカップだけではないかもしれません。

けれども、何かその観光とエコを結び付けてっていうことですね、従来2040年ということですが、いかがでしょう。

○宮本委員

これ、基本的に何かウォーターサーバーが各施設によってそこで水を汲むとかそんな感

じですか

○仙波事務局長

要はここもゴミを減らしましょうっていう観点で、具体例をここに載せてしまって、今考えると少し具体的すぎるなって考えちゃうんですが要はゴミを減らしましょう、来る人もそういう意識を持って観光地に行きましょう、っていうような働きかけですね。

それに対してどういうインセンティブを与えられるかっていうのはやはり事業者さんと一緒に考えていかなきゃいけないのかなと思う。

すいませんが、ここの表現がかなり具体的すぎるので混乱させてしまって申し訳ないんですが、あくまでもゴミを減らすとかそういった観点でのものというふうに、エコカップに引っ張られないでいただきたい

○吉田委員長

これ表現を少し変えますか。今からだと難しいかな。

○仙波事務局長

もうそうですねこれで計画に入れちゃってるんで、申し訳ないです。

○吉田委員長

なるほど

○荒町委員

わかりやすい、想像しやすいでしょうね、そこに引っ張られるっていうのはあるかも知れない。

○吉田委員長

さっきの漫画アニメフェスタが一番、それと近いので考えたら、これ2040年まで待たなくてもいいかなとは思うんで、新しい2番とかでいいかなと思う。

ゴミ分別の推進もこれと同じですかね、考え方として、では、そうしましたら、さっきの処分場の問題もあるんですけども、これも新しい2番いうことでいかがですか。

バイオプラスチック類の普及とこれは何か、廃プラスチック・廃油等のリサイクルすると

EV 車ですので、軽の自動車なんですけども、そういったものをですね室蘭の振興局に入ってるビルの中に一緒に同居してる、市役所の一部の部局とそれと商工会議所さんですね、そちらの方をですねシェアをして、そういったものを活用しながら宣伝をしていくと、こういった取り組み等も行っておりまして、そういう中でですねやってる中で、今日、参加させていただきまして思ったのは、やはりですね、地域に根ざしてこれからですね、

元々災害に対しては非常に心構えもできてる土地柄だなというふうな大変理解をしていたんですが、そういったものを具体的にですね、温暖化防止に繋げていくっていうところとかをきちんと考えられていたりですとか、今のお話の中でもですね、取り組みの中でですね自分たちの生活から考えてですね、どういったことをしていけるのかということを真剣に議論されている姿を見てですね、これからもですね振興局の方でもですね、一生懸命皆さんと一緒に力を合わせてやっていかなければならないのかなというふうに改めて思っている次第でございます

○吉田委員長

ありがとうございます。

他に皆さんから何かございますか、よろしいですか。

それでは以上で本日の議題は全て終了いたしました、次に次第 4 その他についてです皆様から何か全体を通してございますか。

よろしいですか。

それでは事務局からお願いいたします。

○事務局

事務局から連絡ですが、3 回目の推進委員会は、年度末の 3 月に開催したいと考えています。

会議の内容は、およそ 1 ヶ月前議案は会議開催の 1 週間前をめどに皆様のお手元に届くように考えておりますのでよろしくお願い致します。

今回から、メールで案内等を送信させてもらった皆様には、次回もメールで送信させていただきますので、資源の削減に協力いただければと思います。よろしくお願い致します。

○吉田委員長

ペーパーレス会議にご協力いただきましてありがとうございます。

それでは以上をもちまして、令和 7 年度第 2 回洞爺湖町地球温暖化対策実行計画推進委員会を終了いたします。

大変長い時間ありがとうございました。お疲れ様でした。